

「鎖国」下の四つの窓口

1 / 1

古墳

飛鳥

奈良

平安

鎌倉

室町

安土桃山

江戸

明治

今日の問い

「鎖国」の下で、日本はどこを窓口に外国や周りの地域と交わったのだろう。

読み終わったら、最後の「問いへの答え」を見る前に、自分の言葉で答えてみよう。

1 長崎と対馬

長崎・対馬

オランダ風説書

オランダ商館長が幕府に出した、海外のできごとの報告。

朝鮮通信使

将軍の代がわりなどに、朝鮮から江戸を訪れた使節。

「鎖国」の下でも、日本は四つの窓口を通じて外国や周りの地域と交わっていた。幕府が直接治めた長崎には、オランダと中国の船が来航した。オランダ人は出島に、中国人は唐人屋敷に住まわせ、日本人との交わりを限った。中国からは生糸や絹織物、オランダからは薬や書物などが輸入され、日本からは銀や銅が輸出された。オランダ商館長は、海外のできごとをまとめたオランダ風説書を幕府に差し出し、幕府はこれで世界の様子を知った。

豊臣秀吉の出兵でとだえていた朝鮮との国交は、対馬藩の宗氏の仲立ちで回復した。対馬藩は朝鮮との貿易を許され、木綿や朝鮮にんじんなどを輸入した。将軍の代がわりなどには朝鮮通信使が江戸を訪れた。通信使は江戸時代に12回来日し、数百人の行列は各地で人々に迎えられて、学問や文化の交流も行われた。

2 薩摩と松前

薩摩・松前

琉球王国

今の沖縄県にあった国。1609年から薩摩藩に支配された。

シャクシャインの戦い

1669年、不利な交易に対してアイヌの人々が起こした戦い。

薩摩藩は1609年に琉球王国を攻めて支配下に置き、年貢も取り立てた。琉球王国は、薩摩藩に支配されながら中国への朝貢も続け、薩摩藩はこの貿易を通して中国の品物を手に入れ、大きな利益を得た。琉球は、将軍や琉球国王の代がわりごとに琉球使節を江戸に送った。

蝦夷地(今の北海道など)では、松前藩がアイヌの人々との交易を独占した。狩りや漁でくらしていたアイヌの人々のサケ・コンブ・毛皮などはわずかな米などと交換され、松前藩に有利な取引引きだった。不満を強めたアイヌの人々は、1669年、シャクシャインを中心にシャクシャインの戦いを起こしたが、松前藩にしずめられ、その後は支配がいつそう強まった。18世紀には、本州などから来た商人が開いた漁場で、厳しい条件で働かされるアイヌの人々も増えた。

窓口	長崎(幕府)	対馬藩	薩摩藩	松前藩
相手	オランダ・中国	朝鮮	琉球王国	アイヌの人々
おもなこと	貿易・風説書	外交・通信使	琉球使節	交易

問いへの答え

「鎖国」の下でも、日本は四つの窓口で外国や周りの地域と交わった。幕府が治める長崎ではオランダ・中国と貿易し、対馬藩を通じて朝鮮と交わり、朝鮮通信使を迎えた。薩摩藩は琉球王国を支配して中国の品物を手に入れ、松前藩は蝦夷地のアイヌの人々との交易を独占し、不利な交易に対してシャクシャインの戦いが起こった。

次はノートで、下線に語句を書きながら確かめよう →

